

効果的な語彙指導のあり方

赤野 一郎

1. はじめに

生徒にやみくもに単語を覚えさせてもあまり効果を望めません。しかし単語の教え方を工夫すれば、生徒にスピーキングとライティングの力をつけることができます。本稿では、表現力向上に効果的な語彙指導法についてお話します。そこでいきなりですが、最初に次の問題を解いてください。これは某私立大学の入試問題です。この問題の出題意図は筆者の主張と合致しています。本稿を最後までお読みいただければおわかりになるはずです。

Choose the answer from a ~ d that best fits in the blank.

On his retirement, the job that Mr. Sato has will _____ to exist.

a. coincide b. cease c. diminish d. mature

本論に入る前に、本稿の書き方についてお断りしておきます。本誌の読者である英語の先生方に授業で使っていただけるように、生徒に向かって話す口調で書いている部分があります。また四角で囲んだ部分は教材として利用していただけます。

2. 単語はいくら覚えればよいか？

筆者が教えている英語専攻の学生に、この質問をすると、多くは5千語以上、中には8千語は必要と答えた学生もいます。単語を多く覚えるほど良いと思っている学習者が多いようです。投野(2014)が行った1千万語の会話コーパスに基づく英語母語話者の語彙調査によりますと、このコーパスの異なり語(同じ語が何度出現しても1と数えた語数、つまり語の種類)は57,000語ですが、最もよく用いられる上位100語で、データ全体の7割近くを占めるとのことです。その100語の内訳は、基本動詞17と助動詞、接続詞、代名詞、前置詞、副詞などの機能語、つまり動詞と文法関係を示す単語がほとんどで、名詞と形容詞のような内容語は10語しかありません。

さらに興味深い数字は、頻度が上位2千語でデータ全体の8割を超えるのです。たった2千語と思われるかもしれませんが、学習指導要領が定めている必修語彙3千語を遙かに下回る数字です。この程度の語彙で英語母語話者とのコミュニケーションが可能なのかと思われるでしょう。また高校生も、2千語なら知っていると言うでしょう。ここで重要なのは、「単語を知っている」とはどういう意味かということです。次にこのことを考えてみましょう。

3. 「単語を知っている」とは？

たとえば、生徒に「夢は英語で何？」と尋ねれば、即座に“dream”と答えるでしょう。「では夢をかなえるは英語でなんて言う？」と問えば、おそらくだれ一人答えることができないと思います。試しに生徒に次の問題のカッコに連想する日本語を、空欄にその日本語に対応する英語を書かせてください。

本を	()	_____	a	_____
窓を	()	_____	a	_____
計画を	()	_____	a	_____
経験を	()	_____		_____
契約を	()	_____	a	_____

「本を」と言えば、「読む」で read a book, 「窓を」と言えば、「開ける」で open a window と、ここまでは中学生でも言えるでしょう。「計画を立てる」(make a plan)になると、少し怪しくなってきますし、「経験を積む」(gain experience), 「契約を結ぶ」(sign a contract)に至っては英語を専攻する大学生でも答えることはできません。つまり名詞の「計画」「経験」「契約」は英語で言えるでしょうが、それぞれの名詞を目的語にする動詞「たてる」「つむ」「むすぶ」に相当する英語が即座に口から出てくる学習者は、極めて少ないのです。日本語の名詞に対応する英語の単語を知っているだけ

で、その名詞が結びつく動詞を知らなければ、コミュニケーションの場で使いものにならないのですから、plan, experience, contractを「知っている」とは言えないのです。したがって、日本語と対応させる形で覚えた英単語の語数を競っても意味がないということです。

このことを数字で示してみましよう。以下はアップル社の経営最高責任者だった故スティーブ・ジョブズ氏がスタンフォード大学の卒業式で行ったスピーチの冒頭の部分です¹⁾。

Thank you. I am honored to be with you today at your commencement from one of the finest universities in the world. I never graduated from college. Truth be told, this is the closest I've ever gotten to a college graduation. Today I want to tell you three stories from my life. That's it. No big deal. Just three stories.

The first story is about connecting the dots. I dropped out of Reed College after the first 6 months, but then stayed around as a drop-in for another 18 months or so before I really quit. So why did I drop out?

その時々を経験したことは互いに無関係な点(dot)のように見えても、こしかたを振り返ってみると、それがつながっている(connecting the dots)という話から始まり、自分の人生を振り返る彼のスピーチは感動的です。このスピーチをAntConc²⁾というコーパス分析ソフトで調べてみると、興味深いことがわかります。このスピーチは2352語から成るのですが、使われている単語はわずか689種類にすぎません。それにもかかわらず、豊かな内容の感動的なスピーチになっています。

どのような単語が使われているのでしょうか。頻度が10位までの単語とその頻度は、the (99), I (93), to (71), and (67), it (55), was (49), a (46), of (41), that (39), in (36)です。先ほど示した会話コーパスと同様、機能語ばかりですね。ではどのような内容語が使われているかを見るために、頻度が1の語でaで始まる単語を見てみると、adult, adventurous, advised, affairs, age, agent, ago, along, always, amountなど、特に難しい単語はありません。繰り返しますが、語彙学習で大切なのは、「量より質」なのです。覚える単語の質を高めることが必要です。では単語の質とは何でし

ようか。

4. 単語の質とは？

前節で示したように、日本人なら、「夢」と言えば「かなえる」を連想し、「夢をおこなう」とは言いません。このように、単語には相性のいい単語と相性の悪い単語があります。たとえば、AntConcを使って、contrastという単語の相性を調べてみると前置詞ではin, by, toと、形容詞ではsharp, markedなどと相性がいいことがわかります。単語は他の単語と結びついて、1つのかたまりを作ります。contrastで言えば、by contrast, in contrast to, a sharp contrast, in marked contrast toなどです。「単語の相性」とか「かたまり」という言い方をしてきましたが、単語と単語の相性の良し悪しに関する単語どうしの結合傾向を「コロケーション」と言います。単語の質とはこのコロケーションのことなのです。

単語の学習方法が見えてきました。そうです。単語は「contrast=対比」のように、英単語とそれに相当する日本語で覚えるのではなく、単語のコロケーションに関する知識を身につける必要があるということです。具体的にはフレーズ単位で覚えると言うことです。

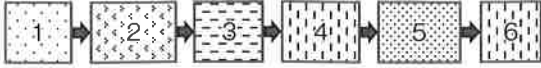
日本語を母語とする人であれば、日本語のコロケーションを使いこなす能力を備えています。たとえば、次のカッコの中に何が入るか、日本人なら即座に答えることができるでしょう。

- | |
|--|
| <p>a. 夢や希望を()には、最初にしっかりライフプランニングを立てることが肝心です。</p> <p>b. 冷房が体調を()原因になっていることもあります。</p> <p>c. 『家庭の医学』は病気・事故やけがで一刻を()ときに役立つ情報です。</p> |
|--|

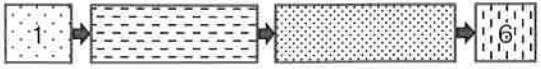
ところが3節で挙げたplan, experience, contractの問題で、即座に動詞を答えることができないのは、日本人英語学習者に、英語のコロケーション能力が備わっていないからなのです。表現力を高めるためには、この英語のコロケーションに関する知識を深める必要があります。

単語と文法の知識では不十分なのです。たとえば、英語の語順規則に従って、考え考え単語を並べて作るので、出来上がった文のイメージは次のようなも

のになります。



1, 2, 3...という具合にぼつぼつと口から出てきます。その結果, 2と3, 4と5の単語どうしの相性が悪く, 意味は通じますが, 不自然な英文になってしまうことがあります。一方, 単語と文法の知識にコロケーションの知識が加わると, 次のようなイメージになります。



2と3, 4と5の単語が, それぞれコロケーションとして自然な結びつきのかたまりとして頭に入っているので, まるで1つの単語のように, よどみなく口から出てきます。表現力を伸ばすには, このようにコロケーションの知識が不可欠なのです。

5. コロケーションにはどんな種類があるか？

very はほとんどの形容詞を強めることができますが, 逆にそれぞれの形容詞には very 以外に相性の良い副詞があります。different であれば, completely, entirely, totally, radically などが, tall であれば, unusually, exceptionally, considerably などが英語母語話者に好まれます。中心となる形容詞に対する副詞を「共起語」と言います。tall, different はだれでも知っていますが, これらの共起語はなかなか頭に浮かんできません。つまり日本人学習者にとって困難な点は, 基本的な単語に対する共起語がすぐに出てこないことです。dream を例に挙げれば, 以下のようなものがあります。[] に囲まれた品詞の部分に入る語が覚えるべき共起語です。

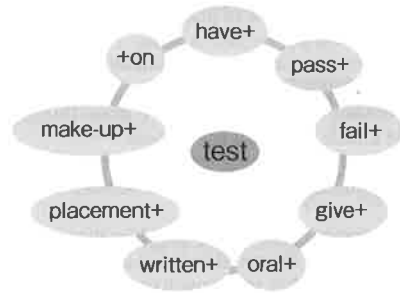
[形容詞]+名詞: [big/lifelong/childhood/impossible]+dream

名詞+[動詞]: dream+[come true]

[動詞]+名詞: [achieve/fulfil/realize/pursue/abandon]+dream

この3つのコロケーションに共通しているのは名詞です。語彙学習で最も重要なのは, 名詞が連れてくる語(連語)を身につけることです。

test はだれでも知っている単語ですが, 下図で示した test を取り巻く連語・共起語をすべて言えるでしょうか。



コロケーションにおける名詞の重要性について赤野(2014)から引用しておきます。

たとえば環境問題についてエッセイを書こうとするとき, まず最初に「何を書こうか」という話題について考えることになりますが, 話題は名詞(environment, pollution, ozone layer, etc)で表現されます。その中の pollution という語から出発するとすれば, 次に考えるべきことは, どのような pollution なのか(形容詞+pollution), そしてその pollution をどうするのか(動詞+形容詞+pollution), そしてその pollution への対処の仕方はどのようなものなのか(動詞+形容詞+pollution+副詞)というふうに, pollution がそれに相応しい形容詞と, ついで動詞と結合し, 最終的に pollution を含む動詞句がそれに適した副詞と結合することで, pollution に関して伝えたい内容が正確かつ適切な文になって表現されることになります。

6. コロケーション情報はどこから得られるか？

コーパスとコンピュータを活用した言語研究を「コーパス言語学」と言いますが, この学問のおかげで, コロケーション研究が飛躍的に進歩し, 辞書のコロケーション情報が充実するようになりました。特にイギリスでは, コーパスに基づいて編纂された数種類の辞書が出版されていて, いずれもコロケーションを売り物にしています。そのなかでも *Longman Dictionary of Contemporary English* [LDOCE] のコロケーション記述はわかりやすく有益です。dream を見てみましょう³⁾。

COLLOCATIONS — Meaning 2: a wish to do, be, or have something — used especially when this seems unlikely

VERBS

have a dream/dreams

I had dreams of becoming a doctor.

achieve/fulfil/realize a dream (=do or get what you want)

He had finally achieved his dream of winning an Olympic gold medal.

pursue/follow a dream (=try to do or get what you want)

She left her home town to pursue her dreams.
 dream a dream *literary* (= have a wish)

We can dream great dreams for ourselves and others.

ADJECTIVES/NOUN+DREAM

big/great dreams (= a wish to achieve great things)

She was a little girl with big dreams.

an impossible dream (= about something that cannot happen)

Having a number one record had seemed an impossible dream.

a childhood dream (= that you had when you were a child)

I had a childhood dream of becoming an astronaut.

a lifelong dream (= that you have had all your life)

His lifelong dream had been to write a novel.

a distant dream (= that it will take a long time to achieve)

Peace in this area may still be a distant dream.

PHRASES

a dream comes true (= something you want happens)

I'd always wanted to go to Africa and at last my dream came true.

英英辞典ですので、意味と用法の説明の後に例文が添えられているのですが、主要な名詞には COLLOCATIONS という欄があり、一種のコロケーション辞典になっています。第5版の序文には以下のような説明があります。

Collocation — or words that are typically used together — are already a key feature of the fourth edition which has proved popular with both students and teachers. For the fifth edition, we have developed this feature further — transforming it into an integrated collocations dictionary which now contains over 65,000 common collocations. We have also included more examples to show these collocations in context so that learners know exactly how to use them.

英和辞典も何らかの形でコーパスを利用していますので、英英辞典に負けず劣らず、コロケーション情報が豊富です。以下は『ウイズダム英和辞典』(第3版)の contract と、『ジーニアス英和辞典』(第5版)の experience のコロケーション欄です。提示の仕方は異なりますが、contract と experience に関わることを表現するのに十分な情報量です。

表現 (1) 契約を ▶award A a ~ A (会社) に請け負わせる/terminate[end] a ~ 終える/cancel [terminate] a ~ 解約する/win [get, secure] a ~ 取る/exchange ~s 交わす/renew one's ~ 更新する/offer A a ~ A (人) に提示する/negotiate a ~ まとめる/sign [enter (into), make] a ~ 結ぶ/rescind a ~ 無効にする/break a ~ 破棄する/fulfill one's ~ 履行する。
 (2) 契約が ▶a ~ ends [terminates] 終わる/a ~ expires [runs out] 切れる/a ~ holds [stands] good 有効である。
 (3) 契約の種類 ▶existing ~ 現行契約/binding ~ 拘束力のある契約/employment ~ 雇用契約/written ~ 約定書/exclusive ~ 独占契約/accessory ~ 付帯契約/maintenance ~ 保守契約/formal [provisional] ~ 本[仮]契約/legal ~ 適法契約/verbal ~ 口頭契約。

コロケーション [動詞+experience] lack experience 経験がない/accumulate experience 経験を重ねる[積む]/broaden [widen] one's experience 経験の幅を広げる/enhance [enrich] one's experience 経験を豊かにする/provide [offer] a good experience 良い経験の場を提供する/reflect on one's experience 経験を振り返る/come [derive] from experience 経験に基づく(◆be based on experience ともいう)/speak [talk] from experience 経験から話す/rely [draw, depend] on one's experience 経験に頼る/draw on O's experience …の経験を参考にする。
 [名詞/形容詞+experience] considerable [extensive, vast] experience 豊富な経験/limited experience 限られた経験/useful experience 有益な経験/valuable experience 貴重な経験/life experience 人生経験/past [previous] experience 過去の経験/work experience 実務経験/professional experience プロとしての経験/relevant experience 関連分野[業務]での経験/teaching experience 教職経験/nursing experience 看護経験/shopping experience 購買体験(◆店の買ひ物のしやすさなどの話題で多く用いられる)。

7. おわりに

「はじめに」で掲げた入試問題の正解は、cease です。LDOCE で exist を調べると、COLLOCATION 欄に以下の説明と例文が載っています。

cease to exist (= stop existing)

Many of these companies will cease to exist in five years' time.

cease to exist は1つのかたまりになって英語母語話者の頭の中に収められているのです。『ウイズダム英和辞典』には、exist の3番目の語義のところで以下の語義説明と例文が添えられています。

〈制度・伝統などが〉存続する: The Soviet Union has ceased to exist. ソビエト連邦は消滅した。

頭に浮かんだ名詞を使うとき、辞書で必ずコロケーションをチェックしましょう⁴⁾。

註

- 1) <http://urx.red/zn7U>
- 2) <http://www.laurenceanthony.net/> から入手可能。
- 3) <http://www.ldoceonline.com/dictionary/dream>
- 4) コロケーションと辞書に関して詳しくは、赤野(2014)を参照。

参考文献

- 赤野一郎(2010)「コーパス言語学に基づく語彙指導」
CHART NETWORK, 62:1-4. 数研出版。
 赤野一郎(2014)「コロケーションと英語辞書」
CHART NETWORK, 72:1-4. 数研出版。
 投野由紀夫(2014)「新しい英語語彙指導と辞書—新指導要領, CAN-DO リスト, CEFR-J をふまえて—(1)」(<http://urx.red/zn5x>)

(京都外国語大学名誉教授)